

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4678800154		
法人名	株式会社 地域ケアささえ愛		
事業所名	グループホーム ふぬいの里		
所在地	鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木134番地3		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成23年2月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成22年11月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアにおけるひとり一人の思いを中心に、住み慣れた地域でご家族、知人、友人と地域の人々と地域行事や活動へ参加しながら、地域における認知症の理解としての役割を担えるように認知症サポーター養成講座等の認知症地域支援にも力をいれています。ホームでは、島の四季を感じてもらえるよう五感にはたらきかけ島野菜、島料理、伝統行事や島唄など利用者が地域で暮らしていると感じてもらえるように様々な特色あるスタッフやご家族が協力しながら日々笑いの絶えない「ふぬいの里」を心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の地域への行事参加や散歩、買い物などを通して近隣との交流を大切にしている。
 ・天気、利用者の体調でデイサービス利用者の送迎時や買い物、周辺のドライブ等柔軟に外出支援をしている。
 ・毎月1回の自主避難訓練を習慣化して利用者が動けるように支援している。
 ・主任制度が執られ業務改善、レベルアップに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会参加と地域の認知症理解、利用者及びスタッフも地域を視野に入れ、利用者の地域への参加や近隣との交流を工夫し増やしています。	理念をホール内に掲示しミーティング時や日々の関わりの中で理念を確認し共有に努め、日々のケアに活かしている。地域との関わりやふれあいが持てるよう行事に参加し、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	様々な場所へ参加できるように地域や行政等と連携し、交流の機会をもうけています。	地域活動に参加し地元の交流を大切にしている。(海の清掃、8月踊り、浜くんだり、敬老会、運動会、豊年祭り)等。また地元の独居高齢者の支援もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保険者の範囲を超えて、認知症支援活動を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政とは日々密な連携をしており、運営推進会議においても協力者の意見や要望を取り入れサービス向上に活かしています	今年度の推進会議は町の要請で、包括、社協、龍郷町内の高齢者に認知症の基礎知識と認知症サポーターについての講座を開催。行政と地域住民に具体的支援がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者とは認知症支援活動など密に協力し合っており、他の事業所も含め認知症ケアへの協力関係を築けてきました。	管理者が認知症支援活動、認知症サポーター養成講座を任せられ、行政、包括、地域の方々の参加があり協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夕方に門を閉める以外は、日中全てオープンである。身体拘束行為の理解もできているが、ご家族の同意を得て転倒予防を優先した一時的なものはある	身体拘束行為を職員は理解している。A棟B棟とも玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組み利用者は自由に行き来している。	グループホームの基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解できるよう、マニュアルを充実させ職員のケアの向上に取り組む事を望みます。
7		○虐待の防止の徹底			

年度	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあつては鳴らない行為としてスタッフも学んでおり、関わるご家族等がそのような事に陥らないように支援の声をかけています		

頁 No	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの制度を管理者が熟知しており、職員も理解しています。利用者の環境により活用しておられるケースもあります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居やサービス利用開始までに複数回、利用者と家族の不安を中心に十分に説明と関係性を築いてからのサービス提供に心がけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々及び家族会等で意見や要望は即対応を基本にお互いが理解し、協力できるよう気を配りしています	家族会、敬老会の行事の後、面会時、入浴時など、随時家族や利用者の要望や意見を聞き反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	質の向上にともなう、職員の声は喜ばしいばかりです。良い意見や提案はすぐに反映させていきます。	全体会、ケア会議で業務改善、リーダー制について、記録の仕方、医療面の改善など、職員の意見や提案を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員へ対する評価や環境整備は、とても重要と考え利用者を支える職員への配慮には特に気を配ります		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他のグループホーム等との交流や研修及び施設内研修として少しでも多くの場へ参加できるように進めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会会員との交流や認知症ネットワークの拡大と様々な支援活動へ参加しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の対応により、入居時の職員の負担が変わることを念頭に利用者の思いを第一に、出来る限りの時間や支援により、安心や信頼関係を築けるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同じように、ご家族への支援もサービス提供時の関わりへ影響するので良好な関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって他のサービスが適切と思える場合には、他の事業所との連携も含め検討していきます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	島の伝統や歴史や昔の習慣など多くを知る先輩と時間を共有し、お互いが支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ターミナルケアを含め、認知症ケアにおける家族の役割を理解しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に近い環境整備や施設だからこそ生きがいを感じて暮らせる馴染みの人との関係構築への支援に努めています	利用者は、各集落の行事へ参加し、集落との繋がりを継続できる支援をしている。馴染みの美容院、墓参り、自宅周辺のドライブなどの外出支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場において、利用者同士が支えあえるよう職員や環境整備に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な場面でお互いに相談や支援など継続しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを中心にケア実践が行えるように職員一同努力しています	利用者との会話の中からや、担当者会議、面会時に家族の意向を聞いて、ケア記録を参考に職員会議で話し合われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年々薄れる記憶への対応や一人の人として利用者を捉えられるように情報収集や把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の流れを尊重しながら、健康の維持、能力の低下予防の為、現状把握と予防に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットスタッフ全員で取り組む介護計画へは利用者及びご家族等の意見や要望も反映させられるようにチームで考えています	毎月の全体会で職員の意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。介護計画は職員、家族、医師の意見を聞き反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成担当者と職員が一人ひとりの視点で気づき、評価、実践へと参加し見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員、時間、環境など必要性を感じ、実行が可能な場合には柔軟に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に詳しい私達の利点を活かし、職員やご家族だけではない支援者の協力も呼びかけています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の少ない環境として、それぞれの思いに合わせた医療機関との関わりを優先に利用者にとって最善な医療の提供に努めています	定期受診は職員が同行し結果は家族に報告している。急病時は家族へその都度報告し、介護日誌にて情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきは、看護主任及び協力医もしくはかかりつけ医へ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の環境による周辺症状の出現や身体機能低下など、早期退院に向けて情報交換と連携に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の思いや終末期の取組みにおけるご家族の協力も含め説明し、段階的に支援策を検討していけるように努めています	今年も2件の看取りを行っている。家族の協力、かかりつけ医と職員が連携を取り、そのときの状況に応じた対応を検討しながら最大のケアをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が習得できているとは言えず、看護主任等へ頼っているのが現状ですが、現在、実践学習として施設内学習の場を設けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施はしているが状況により避難場所変化させる必要があり全員までは把握できていません。地域の協力体制は築いています	今年2月チリ地震の津波警報により自主非難したが、今回10月の大雨でがけ崩れがおき道路が寸断されたため避難場所を検討中である。年1回の消防訓練、毎月1回の自主訓練を習慣化している。地域との協力体制はできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーは理解していますが、島の生活の流れを取り入れ家庭的な雰囲気の中、時折、誇りやプライバシーを損ねるような言葉になる場面がみられます	職員採用時に個人情報保護法についてのオリエンテーションをしている。守秘義務、認知症ケアの勉強会を行い個々の状態にあった対応ができるよう努めている。	人格の尊重、羞恥心への配慮、個人記録の管理などマニュアルを充実させ、内部研修でスキルアップされる事を望みます。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表しやすい関係づくり、「どうしたいですか」などの声かけや個別支援を設け自己決定できるように努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	活発な意見が出にくい場合は、「〇〇をやってみたいのですがどうでしょうか？」と提案する事もしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の持ち物も、利用者を選んでもらっています。季節にあったおしゃれであるようにさりげなくアドバイスしたり、買い物に同行した際にも、本人に好みの物を選んで頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューにそって下ごしらえから調理、味付け、配膳まで一緒に行っています。後片付けも、下膳・洗いまでやって頂いています	A棟B棟とも利用者の力量に応じて野菜の下ごしらえ、台拭き、下膳を手伝っている。島野菜を使った島料理が提供され職員と利用者は共に食卓を囲み、島唄が流れ楽しく食事をしている。デイサービス利用者の状態に応じてテーブルの並びを替えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師、管理栄養士などと連携し、個々の状態に応じて様々な工夫を取り入れて支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者によっては、毎食後はできない方もいます。歯科受診も困難な為職員が医師と相談した結果、うがい対応で了承済み。個々の状態を観察しながら、必要時に歯科受診しています		

自 ら	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は下着を着用し、できるだけトイレで排泄できるように支援しています。訴えられない方は、時間を決めてトイレ誘導。排泄習慣にも考慮しています	利用者の様子、排泄パターンの把握により、歩行介助、トイレ誘導をしている。下着は本人に合わせ検討し、トイレでの排泄に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や日中活動運動を中心に自然排便や水分補給に気配りしながら、排便確認チェック表を利用し、全員の排便状況を把握しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者によっては、夏季の毎日入浴したいという希望を受け入れて実施しています。毎日の状況によりますが、決められた時間の入浴が多いです	週2～3回入浴している。夏場は海で海水浴で汗疹予防している。入浴は利用者とのコミュニケーション作りの時間として入浴支援している。拒否時は職員の交代や声かけの工夫やタイミングを図って入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて休息して頂いてます。居室以外にも、安心できる休息の場を設け、不眠傾向にある方にはその方にあった安眠に導けるように環境やケアを実践しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所内での管理・助言を看護主任が行い、医師と連携し職員も共有情報として確認できるように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や習慣を大切に、生きがいとなるような役割や楽しみを多く取り入れ、職員も一緒に張り合いや喜びを感じながら過ごしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できるよう声かけ・働きかけはもちろん、天候・行き先にもよりますが、ほぼ毎日外出できています。ご家族の協力の下、行事への参加や外食等も支援しています	晴天の日には中庭の芝生で食事やお茶を楽しみながら外気浴に努めている。利用者の体調や希望に応じて買い物、散歩、ドライブを実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望によっては、現金の所持をしてもらっています。今後、ご自分の日用品のお買いものや外食支援を通して、支払いをして頂くよう計画しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特にご家族が喜ばれるハガキ支援に力を入れています。日常的に電話という手段も忘れがちですが、声を聞き会いに来る、または、遠方に居るご家族への支援として行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体の広さを生かし、自然を感じてもらいゆったりと過ごせる環境を心掛けています。音・温度に敏感な方が多いので、特に配慮しています	A棟B棟異なった作りである。A棟は家庭に居ると変わらない段差のある玄関。B棟はバリアフリーでフロアも廊下も広くゆったりしている。両棟とも机やソファの位置を考え利用者の様子が観察できるように工夫されている。ホールには季節行事の写真や飾りつけがしてあり生活感溢れる共用空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペース・くつろぎスペース等を分けることで、それぞれにあった場所で過ごせるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で生活されていた時と同じような環境になるよう、愛用の家具や寝具等を使用しています。ご家族とも相談し、また協力して頂きながら希望にそえられるようにしています	居室は本人の使い慣れた私物(筆筒、時計、位牌、仏壇、衣装ケース、パイプハンガーなど)が持ち込まれ、家族の写真なども飾られてその人らしい部屋になっている。ベッドの位置は介助しやすいように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できる動線の確保、また極力自立できるよう、必要品等は利用者の目線に合わせるように工夫しています		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会参加と地域の認知症理解、利用者及びスタッフも地域を視野に入れ、利用者の地域への参加や近隣との交流を工夫し増やしています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	様々な場所へ参加できるように地域や行政等と連携し、交流の機会をもうけています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	保険者の範囲を超えて、認知症支援活動を行っています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政とは日々密な連携をしており、運営推進会議においても協力者の意見や要望を取り入れサービス向上に活かしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保険者とは認知症支援活動など密に協力し合っており、他の事業所も含め認知症ケアへの協力関係を築けてきました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夕方に門を閉める以外は、日中全てオープンである。身体拘束行為の理解もできているが、ご家族の同意を得て転倒予防を優先した一時的なものはある		
7		○虐待の防止の徹底			

鹿児島県 グループホームふぬいの里

年度	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はあつては鳴らない行為としてスタッフも学んでおり、関わるご家族等がそのような事に陥らないように支援の声をかけています		

頁 No	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	それぞれの制度を管理者が熟知しており、職員も理解しています。利用者の環境により活用しておられるケースもあります		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居やサービス利用開始までに複数回、利用者と家族の不安を中心に十分に説明と関係性を築いてからのサービス提供に心がけています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個々及び家族会等で意見や要望は即対応を基本にお互いが理解し、協力できるよう気配りしています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	質の向上にともなう、職員の声は喜ばしいばかりです。良い意見や提案はすぐに反映させていきます。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員へ対する評価や環境整備は、とても重要と考え利用者を支える職員への配慮には特に気を配ります		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他のグループホーム等との交流や研修及び施設内研修として少しでも多くの場へ参加できるように進めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会会員との交流や認知症ネットワークの拡大と様々な支援活動へ参加しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の対応により、入居時の職員の負担が変わることを念頭に利用者の思いを第一に、出来る限りの時間や支援により、安心や信頼関係を築けるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と同じように、ご家族への支援もサービス提供時の関わりへ影響するので良好な関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって他のサービスが適切と思える場合には、他の事業所との連携も含め検討していきます		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	島の伝統や歴史や昔の習慣など多くを知る先輩と時間を共有し、お互いが支えあう関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ターミナルケアを含め、認知症ケアにおける家族の役割を理解しています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅に近い環境整備や施設だからこそ生きがいを感じて暮らせる馴染みの人との関係構築への支援に努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活の場において、利用者同士が支えあえるよう職員や環境整備に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な場面でお互いに相談や支援など継続しています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを中心にケア実践が行えるように職員一同努力しています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	年々薄れる記憶への対応や一人の人として利用者を捉えられるように情報収集や把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活の流れを尊重しながら、健康の維持、能力の低下予防の為、現状把握と予防に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットスタッフ全員で取り組む介護計画へは利用者及びご家族等の意見や要望も反映させられるようにチームで考えています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	計画作成担当者と職員が一人ひとりの視点で気づき、評価、実践へと参加し見直しを行っています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	人員、時間、環境など必要性を感じ、実行が可能な場合には柔軟に対応しています		

鹿児島県 グループホームふぬいの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域に詳しい私達の利点を活かし、職員やご家族だけではない支援者の協力も呼びかけています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関の少ない環境として、それぞれの思いに合わせた医療機関との関わりを優先に利用者にとって最善な医療の提供に努めています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づきは、看護主任及び協力医もしくはかかりつけ医へ相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の環境による周辺症状の出現や身体機能低下など、早期退院に向けて情報交換と連携に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の思いや終末期の取組みにおけるご家族の協力も含め説明し、段階的に支援策を検討していけるように努めています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全員が習得できているとは言えず、看護主任等へ頼っているのが現状ですが、現在、実践学習として施設内学習の場を設けています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施はしているが状況により避難場所変化させる必要があり全員までは把握できていません。地域の協力体制は築いています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーは理解していますが、島の生活の流れを取り入れ家庭的な雰囲気の中、時折、誇りやプライバシーを損ねるような言葉になる場面がみられます		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いや希望を表せるような話しかけをしたり、決定できるよう選択方を設けたりしています。また、表しやすいように、傾聴する姿勢に努めています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時間に、「今日は何をしたいですか？」「何をしましょうか？」等を話題にし、希望を伺っています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装は、利用者に決めてもらっています。決められない方でも一緒に選ぶように努めています。希望される方には近所の理容店・美容院で、好みの整髪をして頂いています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所が狭いので、カウンターや食卓テーブルを使い、職員が助言しながら準備しています。片付けも、皆さん進んで行ってくれています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療側と相談の上、その方にあった食事を提供できています。食品で補えない場合は、医師の指導の下で栄養補助食品を取り入れたり、管理栄養士を招いての調理勉強会も計画しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者によっては、朝・夕2回の場合もあります。全員歯科受診した上で、医師の助言通りの事はできています。残歯がある方は、定期的を受診しています		

鹿児島県 グループホームふぬいの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全入所者パンツ使用、トイレで排泄(常に声かけ)。訴えられない方は、時間を決めてトイレ誘導。排泄習慣にも考慮しています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認チェック表を利用し、全員の排便状況を把握。医師と相談の上、緩下剤で排便コントロールしています。個々で食事内容を検討し、毎日の運動も積極的に取り入れています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞いたり、その方のタイミングで入浴できるようにしていますが、決められた時間に入浴して頂くことが多いです		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	終日、その方のペースに合わせて安心・安全に休息して頂いています。居室以外にも、安心できる休息の場を設けたり、不眠傾向にある方にはその方にあった安眠に導けるケアをしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全体の管理・助言を看護主任がする事により、職員の戸惑いも少なく薬にたいする理解もできています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課となる役割を設け、継続する事で張り合いを持てるようにしています。外出したり、レクリエーションを通しての気分転換等も、日常的に出来ています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できるよう声かけ・働きかけはもちろん、天候・行き先にもよりますが、ほぼ毎日外出できています。ご家族の協力の下、行事への参加や外食等も支援しています		

鹿児島県 グループホームふぬいの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望によっては、現金の所持をしてもらっています。今後、ご自分の日用品のお買いものや外食支援を通して、支払いをして頂くよう計画しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけれる環境の中、好きな時に電話をして頂いています。近況伺いや頂き物へのお礼の電話等も常にできるようにしています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	限られた広さの中、利用者にあった柔軟な家具の配置をし、常に自然を感じられるよう開放された共有スペースを心掛けています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事スペース・くつろぎスペース等を分けることで、それぞれにあった場所で過ごせるようにしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で生活されていた時と同じような環境になるよう、愛用の家具や寝具等を使用しています。ご家族とも相談し、また協力して頂きながら希望にそえられるようにしています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に移動できる動線の確保、また極力自立できるよう、必要品等は利用者の目線に合わせるように工夫しています		